

川手鷹彦のクメール遺跡群案内

©2014 藝術・言語セラピー研究所「青い丘」

アンコール・トムの東側に位置する寺院の遺跡です。東西1000m、南北600mという広大なラテライトの壁に囲われた中に建っています。タ・プロームとは「梵天の古老」という意味で、ジャヤーヴァルマン7世が、母を弔うために建てたものとされています。ガジュマルの浸食がとても激しい遺跡で、発見当初の様子に近い形で保存されており、歴史を感じることができます。

*カンボジアの観光・オプショナルツアー専門 VELTRA (ベルトラ)
<http://www.veltra.com/jp/asia/cambodia/> より引用

ガジュマルと崩れかけた遺跡が織りなす迷路を各々彷徨いながら、かつての歴史に思いを馳せる、特別な時間と空間を体験出来ます。川手によると、正面入り口からではなく裏口から遺跡に入るのがお勧め。実際に川手の案内のもと遺跡に入ると、その理由がよく分かります。



撮影：峯岐紀仁



撮影：峯岐紀仁

アンコール王…花は咲き誇り、緑雨露に輝いている…
母なる自然に頼ろう…
—川手鷹彦書き下ろし戯曲『物語守護少女天使』より

アンコール・ワット

12世紀前半に建てられた世界最大級の石の寺院です。幅190mの堀をめぐらせ、広さは東西に1.5km、南北に1.3kmとなっており、奈良の平城宮跡の規模に匹敵します。本殿に5基の塔と回廊を持ち、建物構造は、この地方独特の鉄分を多く含んだラテライトと砂岩の積み上げで、屋根は壁の石を内側に少しずつ迫り出して架ける工法が用いられています。アンコールワットは時間帯により様々な顔を見せてくれます。朝日が上る時間帯の薄暗い中で朝日とともに遺跡が照らし出されていく姿はなんとも神秘的です。

*在日本国カンボジア王国観光省（政府観光局）
<http://cambodiatourism.or.jp> より引用

川手鷹彦の力作『物語守護少女天使』の舞台となったアンコール・ワット。主人公の山手鷹彦が戯曲を書いていた場所は…



撮影：峯岐紀仁



ナイトマーケット

クメール遺跡群近くの町・シェムリアップの夜といえばナイトマーケットです。数多くのお土産物屋さんが軒を連ねており、お買い物をしなくてもそこを歩いているだけで楽しい気分になれるスポットです。現地のお店の人と値段交渉をしながら買い物を楽しむのもナイトマーケットの楽しみ方です。

*在日本国カンボジア王国観光省（政府観光局）
<http://cambodiatourism.or.jp> より引用



川手が2014年にカンボジア滞在中に偶然知り合い仲良くなった日本人たちも出店しています。

ビール片手に楽しむフィッシュセラピーも、最初のくすぐたさに慣れてしまえば、互いに会話が弾んで楽しいものです。

アンコール・トム

12世紀後半、ジャヤーヴァルマン7世により建設されたといわれる、アンコール・ワット寺院の北に位置する城砦都市遺跡。南大門、北大門、西大門、死者の門、勝利の門があり、門と堀を結ぶ欄干ではナーガを引っ張る神々の像が見られます。

ライ王のテラス

象のテラス北側にある高さ約6mのテラスで、壁面にはナーガや神々の彫刻が施される。テラスは二重で、内側にも神々などが彫られており、上部テラスにはライ王像のレプリカ（本物はプノンペン博物館）が残る。

*カンボジアクロママガジン <http://krorma.com> より引用



撮影：峯岐紀仁

寺院へと続く道

道が真っ直ぐ奥に立つ寺院へと伸びた印象的な場所。雨期になると精密に整えられた道の両脇には池が出現します。



川手の戯曲『物語守護少女天使』で少女天使たちが現れた場面の挿入歌では、この場所が歌われました。

雨と露に輝く 砂岩の寺の道の右と左
水をたたえる池に 小鳥の声 神々の紡ぐ夢
—『全ては夢』川手鷹彦作詞

ニャック・ポアン

「ニャック・ポアン」は「絡み合う蛇」という意味で、12世紀の後半に、ジャヤヴァルマン七世が建立した仏教寺院。2匹のナーガ（蛇）が基壇を取り巻き、祠堂が池の中央にある。中央の池は、病を癒す不思議な水をたたえる伝説の湖「アナヴァタープタ」を模したといわれており、四方にある祠のような場所に水が流れ出す仕掛けになっている。

*アンコールワット遺跡群ガイド
<http://www.angkorwat.jp> を参考に



撮影：峯岐紀仁



撮影：峯岐紀仁

Special Spot

川手が長年通い続ける中で出会った特別な場所です。ガイドブックで紹介されることもない秘密の場所を、川手がご案内いたします。



撮影：峯岐紀仁

移動にはトゥクトゥクを利用します

現地の人たちの足であるトゥクトゥク。クメール遺跡群を取り囲む森の中、直接肌に風を感じながら走るのはまた格別の時間です。

長年川手の運転手を務めてきたソムナングやチャンの素朴な人たちとの交流など、カンボジアの人とのふれあいをお楽しみください。



撮影：峯岐紀仁